

# 岐阜県恵那市の移住定住促進の取組み

## 恵那市の概要



## 恵那市の主な観光資源

### 岩村城下町・岩村城跡

岩村城下町は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、全長約1.3kmの古い町並み周辺には当時の面影を残す商家や旧家、なまこ壁などが今も佇む。  
 岩村城跡は、江戸諸藩の府城の中でも最も高い所(標高717m)に築かれ、高低差180mの地形を巧みに利用した要害堅固な山城。霧の湧き易い気象までも城造りに活かされており、別名「霧ヶ城」ともよばれている。



### 恵那峡

恵那峡は本曾川をせき止めて作られた大井ダムによってできた人造湖で、大正9年に地理学者の志賀重昂によって恵那峡と命名された。両岸には、奇岩・怪石が立ち並び、春にはさざなみ公園の約200本の桜をはじめツツジも美しく咲き、夏には濃緑に赤い恵那峡大橋が映え、秋には、モミジ、カエデなどが湖面を彩る。



### 日本大正村

かつて養蚕を地場産業としていた頃の町並みをそのまま保存し、建物や風景すべてに大正時代の情緒が活かされている日本大正村。明治39年建築の大正村役場をはじめとし、多くの文化人が通った天久カフェを復元した天久資料館や、当時の服装を身にまとい見学するコースなどがあり、大正ロマンをじっくり満喫できる。



## 恵那市の食文化



「五平餅」  
 東濃地域の郷土の味覚。固めに炊いたウルチ米をつぶして串に通し、漣火で下焼きしてタレを付けてこんがり焼いたもの。



「栗きんとん」  
 東濃地域の特産栗那栗をふんだんに使った上品な秋の味覚。使う栗の産地や品質にこだわり、伝統の製法を使って店毎の個性をだしている。



「へぼ料理」  
 へぼ(地蛭)の幼虫を使った恵那地方の郷土食。へぼ飯のほか、甘露煮など、数々の料理は秘伝の郷土食となる。



「カステラ」  
 昔ながらの材料を使って仕上げた素朴な伝統菓子。ポルトガルから伝えられた室町時代末期の製法をそのまま現代に伝えている。



「寒天料理」  
 鉄分や食物繊維を含んだノンカロリーの健康食品「寒天」を使った数々の料理。山岡町は細寒天の全国シェア9割を誇る。



「えなハヤシ」  
 ハヤシライスを生みの親・早矢仕有的ゆかりの地恵那市のご当地グルメ。地元の古代米を使ったごはん、恵那市特産の寒天、寒天を食べて育った三浦豚を使用している。



「柳葉寿司」  
 チラシ寿司を朴葉でくるんだ郷土料理。家庭により乗せる具材が変わってくるため、味も見た目もバラエティに富んでいる。



「地酒 女城主」  
 女性が城主だったという町の歴史を今に伝える「女城主」を中心に、地酒を昔ながらの製法で作られている。

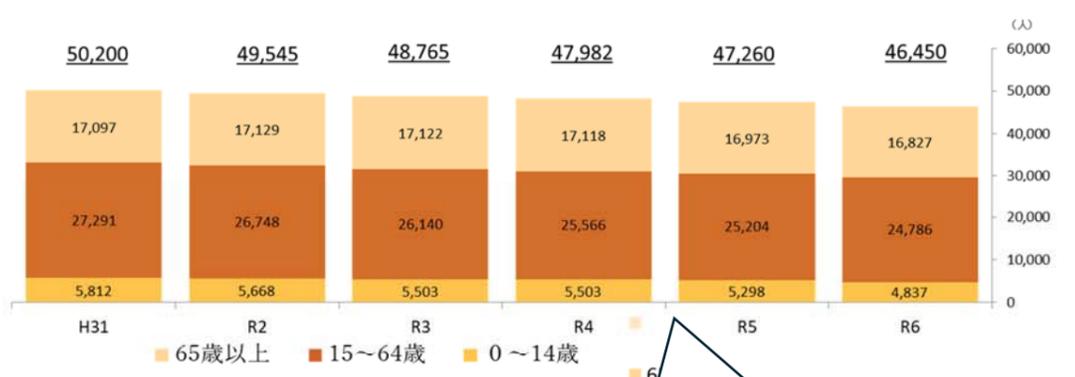
## 恵那市の現状

### ■人口・世帯数の推移 (各年4月1日)



資料：人口 住民基本台帳、世帯数 恵那市統計書

### ■年齢層別人口の推移 (各年4月1日現在)

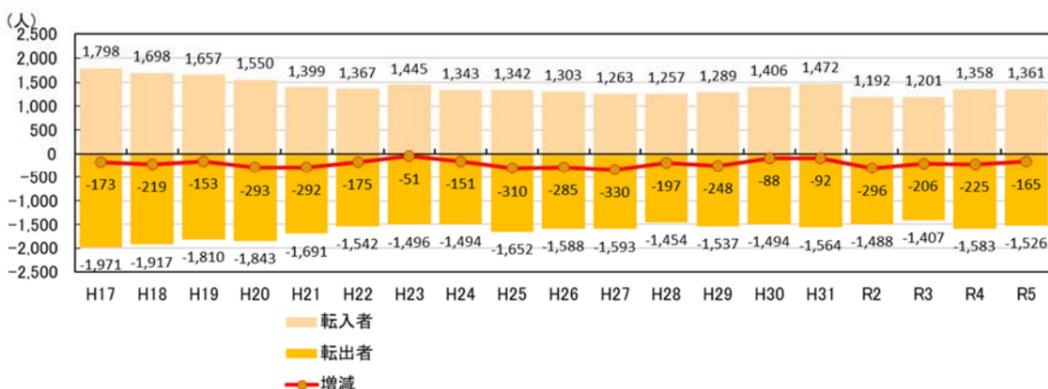


資料：住民基本台帳 (各年4月1日現在)

平成26年から令和6年4月1日までの総人口と世帯数の推移について、総人口は継続して減少傾向にあり、平成26年では53,327人でしたが、令和2年からは50,000人を下回っており、令和6年4月1日では46,450人となりました。人口は減少傾向ですが、世帯数は令和6年では19,936世帯で微増傾向です。

総人口は平成31年以降で緩やかに減少しています。年齢層別では、0~14歳及び65歳以上は令和3年以降で減少、15歳~64歳は平成31年以降継続して減少しています。市全体としては緩やかに少子高齢化が進んでいます。

### ■転入者・転出者の推移



転入、転出の増減に伴う社会動態について、グラフの上段が転入者、下段が転出者、まん中の折れ線グラフが、転入者数から転出者数を差し引いた増減数になります。平成17年以降で転入者は約1,000~1,800人、転出者は約1,400~2,000人でそれぞれ推移しており、いずれの年も転出者数が転入者数を上回っており、社会動態減となっています。

## 移住定住促進の取り組み

- ・恵那市定住奨励金交付開始(H21.4～)
- ・ふるさと活性化協力隊配置(H22.10～)
- ・空き家バンク設置(H22.10～)
- ・空き家改修補助金交付開始(H23.8～)
- ・恵那暮らしサポートセンター設置(H25.4～)
- ・ふるさと活力推進室設置(H22.4～H28.3)
- ・奨学奨励金交付開始(H25.4～ 奨学貸付金の1/2)
- ・地域おこし協力隊配置(H25.4～)
- ・恵那暮らし体験事業補助金交付開始(H25.4～)
- ・移住定住推進事業開始(H28.4～)
- ・まちづくり推進員配置(H28.4～ 7地区へ延12名配置)
- ・恵那くらしビジネスサポートセンター開設(H29.8.29～R5.3.31)
- ・農地付空き家取得にかかる農地取得要件(下限1アールハ)の緩和(H30.4～)
- ・農振除外基準の見直し(第1種農地以外は一般住宅可能 H31.1～)
- ・移住定住サポーター制度開始(H31.1～)
- ・新婚おめで10事業・新婚生活はじめよまいか事業(H31.3末まで)
- ・東京圏からの移住支援金交付開始(登録企業へ就職した場合等R1.7～)
- ・空き家バンク活用支援補助金(改修費引上げ・登記・家財片づけ費用補助開始R1.10～)
- ・空き家掘り起こし報奨金開始(自治会等に対し、登録50千円、成約50千円R2.4～)

## 直近の取組

### 若者世代、子育て世代へ向けた移住定住の支援策

補助金名	年齢要件	補助額
①えなで暮らそう奨励金【R5年度拡充】	50歳未満	基礎額30万円 子育て加算20万円 移住加算10万円 新婚加算20万円(拡充)
②空き家バンク活用支援補助金	年齢要件なし	改修費用150万円 登記費用10万円 片付け費用10万円
③東京圏からの移住支援金	年齢要件なし	世帯100万円 単身60万円 ※子どもがいる世帯30万円加算あり
④新婚生活応援事業補助金【R5年度新規】	50歳未満	10万円
⑤清流の国ぎふ移住支援金【R5年度新規】	40歳未満	世帯20万円 単身10万円
⑥移住促進補助金【R5年度新規】	年齢要件なし	宿泊費 4千円 交通費 1万円(地域によって変更有り)



### ●全国人口3万人から5万人未満の市

### ●東海エリア部門の総合部門で第1位に！！

月刊誌「田舎暮らしの本」(宝島社)2月号の「2024年第12回住みたい田舎ベストランキング」で、恵那市が全国「人口3万人から5万人未満の市」の総合部門で第1位に選ばれました。

また、「東海エリア部門」、「子育て世代が住みたい田舎部門」、「シニア世代が住みたい田舎部門」でも第1位にランクし、本市が住みやすいまちとして高く評価されました。

市の施策として、子育て世代の支援では、高校生世代までの医療費無償化や多子世帯の児童福祉サービス利用料の免除、第3子以降の出産祝い金の支給などを充実。

シニア世代の支援では、デマンド交通や、まちなか巡回バスを始めるなど、交通弱者に対する施策を実施しているほか、交通コンシェルジュ制度や、えなワンコインパスポートの事業など、さまざまな角度から、「住みやすい恵那市」を目指して取り組んだことが評価されました。

**恵那市へ移住し、定住する人を増やすために  
恵那に暮らす私たちが、恵那市の魅力に気づき、  
その魅力を外に向けて発信していきます。**